令和6年度第1回国分寺市文化財保護審議会議事録

- 1 日 時 令和6年6月12日(水)午後2時～
- 2 場 所 武蔵国分寺跡資料館 講座室
- 3 出席状況
 - 出席委員 (6名) (敬称省略)
坂誥 秀一、福嶋 司、太田 和子、副島 弘道、馬場 憲一、松井 敏夫
 - 出席職員 (9名)
古屋真宏(教育長)、日高久善(教育部長)、新出尚三(ふるさと文化財課長)、渡邊晃世(文化財保護係長)、寺前めぐみ(史跡係長)、勝山俊也(文化財普及担当係長)、依田亮一(市史編さん室長)、一ノ瀬理(市史編さん担当係長)、高橋喜子(文化財保護係)

[会議次第]

- 教育長挨拶
- 委嘱状の伝達
- 正副会長選出
- 1 開会
- 2 正副会長挨拶及び委員挨拶
- 3 事務局連絡
- 4 報告事項
 - (1) 令和6年度ふるさと文化財課事務事業の概要について 資料1
 - (2) 文化財普及事業について 資料2
 - (3) 史跡武蔵国分寺跡買収事業について 資料3
 - (4) 史跡武蔵国分寺跡整備事業について 資料4
 - (5) 史跡地内のトイレ改修について 資料5
 - (6) 市史編さん事業について 資料6
- 5 その他 その他資料1
- 6 閉会

<新出ふるさと文化財課長>

本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。

本日、事務局を務めさせていただきます、ふるさと文化財課長新出です。どうぞよろしくお願いいたします。本日、藤井先生につきましては参加できないかもしれないとお伺いしておりますので、欠席の可能性が高いというところでございます。

また、傍聴につきましては、本日は来ておりませんので、御報告を申し上げます。

では開会に先立ちまして、国分寺市教育委員会古屋教育長より一言、御挨拶を申し上げます。

教育長挨拶

<古屋教育長>

改めまして、皆様、こんにちは。本日は大変暑い中、また大変お忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。今年度第1回目の文化財保護審議会ということで、どうぞよろしく願いいたします。

今年2月に開催する予定でありました令和5年度の2回目の審議会は雪のために中止ということで、書面開催をさせていただきましたけれども、そのことがうそのように今日は大変暑い日となったところでございます。

さて、本年4月1日からまた新たな任期ということで皆様方には御了承いただきまして、引き続きの委員をよろしく願いいたします。後ほど、また会長、副会長の互選もさせていただきますので、何とぞ、どうぞよろしく願いいたします。

そして、本日御報告もさせていただきますが、昨年度から準備を進めてまいりました市史編さん作業でございますが、本日6月15日付の広報誌の配付をさせていただきましたが、今年度から市史編さん室を開設いたしまして、新たな体制でスタートしたところでございます。市民参加の基というところが大きな特徴になるかと思っておりますが、10年間以上をかけまして、これから市民に愛される市史を紡いでいきたいと考えております。何とぞ、委員の皆様方にも御支援をお願いしたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

また、国分寺市におきましては、本年、市制施行60周年という記念すべき年になっております。併せて、ちょうど新庁舎も完成間近ということで、大体80%ぐらい今、工事が進んでいると伺っております。移転につきましては、暮れに移転をして、来年1月から業務を開始するという流れで、資料館にございます執務室のふるさと文化財課も新庁舎に移転する予定になっております。その関係で、ここの使い方も様々な工夫をしているのかなと考えているところでございますので、また、いろいろと御指導いただけたら、ありがたいと思っております。本年度も引き続きの御指導をどうぞよろしくお願い申し上げます。

委嘱状の伝達

<新出ふるさと文化財課長>

では続きまして、古屋教育長より委員の皆様へ、今期の任期の委嘱状の伝達を行います。任期につきましては、国分寺市文化財の保存と活用に関する条例第33条第2項の規

定によりまして、令和6年4月1日から令和8年3月31日までの2年間となっております。順に名前をお呼びいたしますので、その場にお立ちいただければと存じます。よろしくお願いたします。

(委嘱状交付)

正副会長選出

<新出ふるさと文化課長>

ありがとうございました。本日の委員会でございますが、委員7名中6名の委員の方に御出席を頂いてございますので、文化財の保存と活用に関する条例第34条第2項の規定に基づきまして、会議が成立していることを御報告申し上げます。

続きまして、文化財の保存と活用に関する条例第33条第3項の規定に基づきまして、正副会長の選出を互選によりよろしくお願したいと思ひます。慣例に倣いまして前会長に座長となつていただきまして、進行をお願したいと思ひます。坂詰委員、どうぞよろしくお願いたします。

<坂詰委員>

それでは慣例ということでございますので、座長を務めさせていただきます。どのようにしたらいいのかわかりませんが、前例どおりということでございますので、その辺で進めていきたいと思ひます。この件について、何か御発言があれば頂きたいと思ひます。

<太田委員>

僭越ではございますが、引き続き会長には坂詰先生、副会長には福嶋先生にお受けいただけたらと思っております。以上でございます。

<坂詰委員>

ただいま太田委員から発言がございまして、会長に私、それから副会長に福嶋先生という声がございましたが、皆さん、いかがでございましょうか。

(「賛成」の声あり)

<坂詰委員>

恐れ入ります。皆さんの御協力を頂きながらと思ひますが、私としては、後ほど申し上げますが、そろそろ交代したいと、福嶋先生にお願いできればと思っておりますが、あまりそれに時間を取つてはいけませんので、取りあえず進めるということにさせていただきますと思ひます。

<新出ふるさと文化財課長>

ありがとうございました。どうぞよろしくお願いたします。

それでは、続きまして、史跡武蔵国分寺跡保存整備委員会設置条例第3条第1項第2号に、文化財保護審議会の委員2名が保存整備委員会の委員になる旨の規定がございまして、こちら慣例によりまして、正副会長に代表として委員となつていただきたく存じますが、御了承いただけますでしょうか。

ありがとうございます。では、武蔵国分寺跡保存整備委員会の委員に、坂誥会長と福嶋副会長になっていただくということで、よろしく願いいたします。ありがとうございました。

では、ここからの進行につきましては、会長をお願いしたいと思います。坂誥会長、どうぞよろしく願いいたします。

1 開会

<坂誥会長>

それでは、ただいまから令和6年度第1回文化財保護審議会を開催したいと思います。よろしく御協力をお願いいたします。本日の予定はただいまから1時間30分以内ということでございます。90分ぐらいで全て済ませたいと思いますので、御協力をお願い申し上げます。

2 正副会長挨拶及び委員挨拶

<坂誥会長>

先ほど委員の皆様から互選で、また私がやれということでございますが、私はこれで何回目かは分かりませんが、あまり言ってもしょうがないので。何しろもう歳も歳ですので、よろしく御協力をお願いいたしまして、できるところまで務めさせていただくということで、よろしく願います。

それでは、次に福嶋先生から一言。

<福嶋副会長>

福嶋でございます。私、あまりこういう役目は適していないと思うのですが、自称坂誥先生の弟子だと、皆さんに申し上げておりますので、精いっぱいお手伝いできる場所はさせていただきたいと思っております。また、国分寺市民でございますので、国分寺の文化財保護のために少しでもお役に立てればいいなど、そんな夢を持っています。よろしく願います。

<坂誥会長>

ありがとうございました。続きまして、委員の皆さんから一言ずつ、自己紹介を兼ねてお願いしたいと思います。もう既に御存じかと思いますが、よろしく願いいたします。それでは副島先生。

<副島委員>

副島でございます。私、仏教美術を一応専門にしている、あまり表に出る機会が多くはないと思っておりますけれども、どうぞよろしく願いいたします。

<坂誥会長>

それでは、太田先生。

<太田委員>

太田和子と申します。長い間、国分寺市の教育委員会の文化財の仕事をさせていただ

いておりまして、少し離れておりましたけれども、また私程度でお役に立つことがあればと思ひまして、文化財に関わらせていただいております。専門は近世の地域の歴史についてやっておりますので、よろしくお願ひいたします。

<坂誥会長>

馬場先生。

<馬場委員>

馬場憲一と申します。よろしくお願ひします。私はこの文化財の審議員に拝命してから、ちょうど2期目になります。まだ分からないことがいろいろとあり、ここへ来て勉強させていただいているようなもので、少し申し訳ないなという気持ちもありますけれども、もともと多摩地域を中心とした地域史というものをやっていたので、そういうことでお手伝いできればと思っています。最近文化財保護などのことも少しまとめたなどもしていますので、そういう点でも、何かお役に立てればと思っていますので、何とぞよろしくお願ひします。

<坂誥会長>

それでは松井先生

<松井委員>

松井です。よろしくお願ひします。学校教育の出身ですので、何か関わることでお役に立てることがあればいいなと思っています。ふるさと文化財課が非常に充実をしていて、本当に仕事を多くこなされているということで、すばらしいなと思いながら、いつも拝見していますけれども、この2年間、また委員として、何かお役に立てればなと思っています。どうぞよろしくお願ひします。

<坂誥会長>

それでは委員の紹介は終わりました。次に事務局より連絡があるかと思ひます。お願ひいたします。

3 事務局連絡

<新出ふるさと文化財課長>

では、事務局より御報告申し上げます。本年度第1回目の審議会となりまして、4月1日付の人事異動に伴います教育部及びふるさと文化財課の体制、また新入職員の着任につきまして、御紹介をさせていただきます。まず教育部長につきましては、前任の可児部長が役職定年となりまして、新しく日高部長が社会教育課長より昇任いたしまして、教育部長に着任してございます。

<日高教育部長>

教育部長に4月1日に就任しました日高と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

<新出ふるさと文化財課長>

続きまして、文化財保護係長でございますが、前任の増井が市長部局市民生活部文化

振興課に異動となりましたので、教育総務課より渡邊晃世が昇任の上、着任してございます。

<渡邊文化財保護係長>

2年8か月ぶりにふるさと文化財課に戻ってまいりました。渡邊と申します。また、どうぞよろしくお願ひいたします。

<新出ふるさと文化財課長>

同じく文化財保護係では、中道が職員課に異動となっておりまして、新たに、学芸員でございます新入職員の高橋喜子が着任してございます。

<高橋文化財保護係員>

高橋喜子と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

<新出ふるさと文化課長>

文化財普及担当係長でございますが、昨年から引き続きまして、勝山が担当いたします。

<勝山文化財普及担当係長>

勝山でございます。よろしくお願ひします。

<新出ふるさと文化財課長>

続きまして、史跡係長でございますが、こちらも昨年度から引き続きまして、寺前が担当いたします。

<寺前史跡係長>

史跡係長の寺前めぐみと申します。2年目になりました。どうぞよろしくお願ひいたします。

<新出ふるさと文化財課長>

また係員でございます宮崎につきましては、交通対策課に異動になりましたので、その後任として、学芸員であります新入職員牧野望実が着任してございます。

<牧野史跡係員>

牧野望実と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

<新出ふるさと文化財課長>

昨年度、ふるさと文化財課の担当でございました市史編さん担当につきましては、新たに教育部内に市史編さん室を立ち上げ、依田が室長として着任しております。なお、昨年度市史編さん担当課長でありました一ノ瀬につきましては、同室の係長として、引き続き市史編さん業務に携わります。

<依田市史編さん室長>

市史編さん室長を拝命いたしました依田と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

<一ノ瀬市史編さん担当係長>

一ノ瀬でございます。引き続き、どうぞよろしくお願ひいたします。

<新出ふるさと文化財課長>

本年度、このような体制で事業を推進してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

4 報告事項

<坂誥会長>

どうも御苦労さまでございます。それでは議事に入りたいと思います。本日は報告事項が6件ございます。暫時この順序で進めていきたいと思います。まず、報告事項（1）です。令和6年度ふるさと文化財課事務事業でございます。これにつきまして事務局より説明をお願いいたします。

<新出ふるさと文化財課長>

ふるさと文化財課長です。今年度のふるさと文化財課の事務事業の概要について、ご報告を申し上げます。資料につきましては、資料1、A4横の資料を御覧いただきたいと思います。令和6年度につきましても、既に2か月あまりが経過しておりまして、既に執行中のものもございりますが、主な増減理由につきまして、御報告をいたします。

まず1番目、「文化財保護関係の委員に要する経費」でございますが、本委員会の開催に係る経費でございます。3回目分の予算計上をしております。また、委員の旅費につきましても、今年度は計上しておりまして、8,000円の増となります。

2番目、「文化財調査に要する経費」でございますが、3,901万8,000円の増額となっておりますが、こちらにつきましては、令和7年度末に公開予定の公開型GISに埋蔵文化財の発掘調査情報を載せて、ウェブ上で確認できるようにすべく、本年度、その準備行為として、システムに対応するデータ作成の費用を計上してございます。これが主な理由となります。

3番目、「文化財展示施設に要する経費」につきましては、158万1,000円の減額となっております。減額の理由でございますが、令和6年度より展示施設に係る修繕につきましては、新たに市が導入してございます包括的な施設管理として、予算・契約事務を政策部で行うこととなっております。このことによりまして、文化財展示施設の建物に付随する修繕料が削減されたものになります。

次、4番目、「文化財普及に要する経費」につきましては、歴史講演会の開催、また文化財普及のためのPRグッズを作成することが主な増減の理由となっております。歴史講演会につきましては、文化庁より近江主任調査官に御講演を頂く予定を立ててございます。昨年度に比べまして36万6,000円の増額となります。

続きまして、5番目、「文化財保護事務に要する経費」につきましては、241万6,000円の減額となっております。こちらは新しく市史編さん室が立ち上がりましてことにより、古文書の解読作業に当たってました時間額会計年度任用職員の報酬を市史編さん室に移設したこと、また普及図書等の再販等の印刷物の発行等がないこと、それから市指定文化財の修繕の予定がないことなどが主な減額の理由となっております。

続きまして、6番目、「史跡武蔵国分寺跡公園用地買収に要する経費」につきましては、

2,393万1,000円の増額となっております。今年度3か所の買収を予定しておりますが、昨年度より面積が広いことが主な要因でございます。後ほど報告事項の中で詳しい場所等を御報告いたします。

続きまして、7番目、「史跡武蔵国分寺跡公園の管理に要する経費」につきましては、今年度修繕予定をしております元町通りからお鷹の道湧水園に入る入り口部分のアスファルト舗装の打換え、それからこの園内の池の浚渫作業などを行う予定でございます。670万9,000円の増額となっております。

続きまして、8番目、「史跡保存整備に要する経費」でございます。昨年度から開始しております南門地区の整備工事につきましては、本年度2年目となります。本年度は一連の整備工事の中の主要部分であるエントランス部分から伽藍中枢部に至る参道部分の工事を行います。また大型地形模型の製作を行うことから増額となっております。昨年度より1億2,241万円の増額となっております。以上、説明を終わります。

<坂誥会長>

事務局の説明が終わりました。何か御意見・御質問などはございますでしょうか。よろしゅうございましょうか。

それでは、引き続き2点目に移りたいと思います。2点目は「文化財普及事業について」でございます。資料が用意してあります。事務局、お願いいたします。

<勝山文化財普及担当係長>

史跡に関する普及・活用事業について御報告申し上げます。お手元配付資料2「国分寺市文化財ふれあいカレンダー【令和6年度普及事業予定】」を御覧ください。この中で幾つか御紹介させていただきたいと思います。

子ども向けイベントにつきましては、7月の昆虫缶バッジ作成、こちらは7月23日からの資料館夏季企画展示に合わせて、カブトムシやトンボ、チョウチョなどの絵柄の缶バッジを作る企画です。期間中は毎日作ることができます。表中、8月21日は当日缶バッジを作るイベントとして参加者を受け入れ、実施するものです。このほかとしまして、8月3日、10日に和紙に文字瓦などの絵柄を色鉛筆で浮き出したものを、うちわに貼って作品を作る「拓本うちわづくり」、8月24日、鍍瓦や尖頭器などの型を掘ったものに色を塗って作る「レプリカをつくろう」など、子どもたち向けのイベントとして、夏休みの自由研究にもなる事業を実施してまいります。

今年ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座につきましては、従来実施しておりました6月の開催とし、6月26日より10月3日までの7日間、開催いたします。既に受付は終了しており、お申込み枠15名に対して12名の申請がございました。養成講座終了後は史跡のガイドボランティア及び各種イベントの際に事業運営補助を行う普及ボランティアとして活動していただく予定でございます。

湧水園内旧本多家住宅長屋門の展示、飾り付けにつきましては、夏以降といたしまして、9月の「十五夜飾り」、12月の「正月飾り」、2月中旬からの「ひな人形展示」など、年中行事に合わせた展示をしてまいります。市外文化財巡りは、今年度、年明け2月に

茨城県石岡市をバスで訪ね、常陸国分僧寺、常陸國総社宮、つくば市の平沢官衙遺跡の見学を予定してございます。このほかの事業につきましてはお手元の資料を御確認いただきたいと思っております。説明は以上です。

<坂誥会長>

御苦労さまでした。例年どおり、ふれあいカレンダーにたくさんありますので、係は大変だと思いますが、頑張ってください。何か御質問はございますでしょうか。よろしゅうございますでしょうか。

それでは、3番目に移らせていただきたいと思っております。「史跡武蔵国分寺跡買収事業について」、説明をお願いします。

<渡邊文化財保護係長>

文化財保護係長の渡邊です。どうぞよろしくお願いいいたします。資料3-1、A4の横サイズの地番図を御覧ください。こちらは史跡の範囲及び公有化の範囲をお示ししたのものになります。令和3年度までに公有化を完了した範囲を青色で、令和4年度に完了した範囲を黄色で、そして昨年、令和5年度に買収した場所をピンク色で示しております。

まず昨年度、令和5年度は2か所を合わせまして、約1,512平米を公有化いたしました。これにより府中市域分の349.38平米を除く武蔵国分寺跡の史跡地の総面積16万5,259平米のうち、令和6年3月末までで約12万4,346平米を公有化いたしました。これに伴いまして、公有化率はこの3月末までで75.24%となっております。

続きまして、今年度の買収予定を御案内いたします。1枚おめくりいただいて、資料3-2を御覧ください。今年度を買収を予定しているものがピンク色でお示した3か所でございます。初めに地図中央やや左にピンク色で示してある場所、こちらが2筆で、公簿で565平米となっております。ちょうど東山道武蔵路跡の上に当たるところでございます。

続きまして、地図の中央から下のほう、正方形に近い形になっている物件です。位置的には南門から参道を下っていった寺院地区画溝の北側の辺りにあるところでございます。こちらも2筆で、面積は公簿で422平米となっております。

最後に、先ほどの土地の北東にある細長い形の物件でございます。こちらは伽藍地区画溝の外側で、七重塔の塔2の南側に当たる部分でございます。面積は公簿で139平米となっております。

今年度3か所を合計いたしますと、1,126平米を公有化する予定となっております、来年度末の公有化率は75.92%となる見込みでございます。報告3は以上でございます。

<坂誥会長>

御苦労さまでした。ただいまの報告に対して、何か御質問はございますでしょうか。

<馬場委員>

詳細に説明していただいて大体分かったのですが、この指定地というものはこの赤枠のところよろしいのですか。

<渡邊文化財保護係長>

はい。

<馬場委員>

公有化率で 75%だから、残りはあと 25%ぐらいあるというのは、結局、今、白くなっているところ、ここだけということなのですか。

<渡邊文化財保護係長>

この中の緑色の部分がまだ公有化していないところになりまして、そこを除くと 75.92%ということになります。

<馬場委員>

分かりました。見込みとしては、あと何年ぐらいかかるのでしょうか。

<渡邊文化財保護係長>

史跡の範囲も土地の所有者様からお申し出いただいたりして、追加の指定もございませので、指定の範囲が増えると、また買わなくてはいけない土地も増えていくということで、なかなかあと何年と申し上げるのは難しいと思っております。

<馬場委員>

今までで何年ぐらいかかった、これももう随分かかった。

40、50 年かかっているのですか。

<寺前史跡係長>

史跡の公有化が昭和 51 年から始まっております。<依田市史編さん室長>

訂正をいたします。史跡の公有化は大正 11 年に、102 年前に国の史跡の指定を受けまして、早速翌年、翌々年に内務省が金堂・講堂辺りの一部と、七重塔辺りの一部については公有化をしております。その後はしばらく公有化はしていなかったのですが、昭和 40 年から文化庁の補助金も頂きながら市でも毎年公有化を進めておりますので、来年で 60 年ということになります。今、寺前係長が昭和 51 年と申しましたのは、100 年前に指定をした後に、順次指定の範囲を広げていく追加指定を、今まで 12 回やっているのですが、その初回の指定が昭和 51 年ということで、訂正をさせていただきます。

<馬場委員>

どうもありがとうございました。分かりました。

<坂詰会長>

75.何%と、公有地にしては多いと思うのですね。だけれども、もっと史跡範囲を増やしていかないといけないので、そうすると、恐らくもっと増えてくる。おっしゃるように、恐らく全国でもこれだけ補助金を出しているところはないのですね、文化庁としては。地価が高いものだからしょうがないのですけれども。それから本件は、これは地主会との関係だと思うのですが、主要部分が地主さんの協力を得ていかなければいけないのですが、そこがまだ幾つか重要な箇所が残っていると思います。この件については今後も問題が残っていると思いますが、皆さん、一生懸命やっているほうだと思うのですよね。ですから馬場先生も御協力を頂きまして、できるだけ重要部分の買収にひとつ。

東京都に少しプッシュしておきますか。都も一生懸命やってくれないと、文化庁はやはり都の意向というものは強く思っているようでございます。よろしく願いいたします。よろしゅうございますか。

<馬場委員>

はい、結構です。是非引き続き、頑張るといいう言い方もおかしいですけども、公有化を是非やっていただくのがよろしいかと思っておりますので、よろしく願いいたします。

<坂誥会長>

大変だと思うのです。公有化すると、そのアフターケアが大変なのです。ですから、アフターケアをしていないところが大分ありますよね。そのアフターケアを今度やるのが大変になると思うのです。広くやればやるほど問題点が出てきて、職員の方の尽力が壊れてしまうのではないかと思いますので、よろしく願いいたします。

<松井委員>

国の予算も国で使い切れなかった部分があると、国分寺市にかなり回してくれているという実績はあるのですけどね。だから、かなり国としては国分寺市を大事にしてくれているなと思ってきました。

<坂誥会長>

国が増えると、国分寺市と東京都が困るのですよね。いろいろな関係がありますけれども。大分松井先生も苦労されてプラスしていただいた記憶があります。よろしゅうございますでしょうか。

それでは、次に移らせていただきます。4番目です。「史跡武蔵国分寺跡の整備事業について」、お願いします。

<寺前史跡係長>

改めまして寺前でございます。資料4をおめくりください。「史跡武蔵国分寺跡の整備事業について」ということで、令和5年の整備工事の終了の御報告と、今年度に行います整備の工事の予定を御報告いたします。史跡武蔵国分寺跡の整備事業としましては、令和2年度までに伽藍の中枢部・中枢地区が終了いたしまして、令和3年度から南門地区に移ってございます。そのうちの令和4年度は樹木の中軸線を中心にしまして、老木とか古木、虫害になっている樹木を中心として、令和4年に樹木の伐採をしてございます。

昨年度、令和5年度は、市立第四中学校のちょうど東側に当たるエリアを第二工区その2ということで、約6,625平米ほど整備工事を行っております。その場所は伽藍地区画溝の復元と、写真の1枚目にある遺構解説板、また第四中学校のところが武蔵国分寺跡の修理院というものに比定されていますので、この修理院と第四中学校の建設を記載しました遺構の解説板も設置してございます。

また南側を中心に、福嶋先生に御指導いただきながら、武蔵国分寺の当時の景観に合わせた、この辺りに生えていた植栽をいたしまして、広い芝生と植栽の空間を演出してございます。4枚目の写真なのですけれども、長く見えるのが腰かけになっておりまし

て、南エントランス広場というところで腰をかけながら、解説板を見ていただいたり、大型の立体地形模型を見ていただく場所を整備してございます。

令和6年度の整備なのですけれども、令和5年度に整備した地区のちょうど東側の参道部分のところの整備をする予定でございまして、参道、南門、あと区画溝を渡る時の木橋、あと南門に続きます伽藍地区画溝の復元などをする予定になっております。

1枚をおめくりいただきまして、図面をつけております。図面の左側の黄緑になっている部分が令和5年度に行いました第二工区その2というエリアで、芝生を植えまして、伽藍地区画溝の復元と、あと遺構解説板、あと東屋ですとか、腰かけなどを配しました広い空間として整備を終えております。

続きまして、その右側、ピンクで囲んであるエリアなのですけれども、今年度の工事地区としまして、参道範囲、それから北東範囲の工事を行う予定になっております。参道の南側のところには武蔵国分寺跡という名称標識と、大型の立体地形模型を置く予定にしております。また併せまして、水色の部分、右上と右下と左下の3か所、水色で囲ってある部分があるのですけれども、それが来年度の工事の予定になっていまして、このうちの右上、北東部分と南西部分、右上と左下の部分につきましては、令和4年度に買収した土地でございまして、本年度実施設計を行ってまいろうと思っております。説明は以上でございまして。

<坂誥会長>

ありがとうございました。いろいろと先生方の御尽力で進んでいるようでございますが、何か御意見がございましたらお願いしたいと思います。いかがでございましょうか。福嶋先生、いかがでしょうか。

<福嶋委員>

計画どおりに進んでいるのは大変いいことだと思っております。注意していただきたいのは、やはり作る時は一生懸命、きれいにできるのですけれども、その後のケアというのはいつも、特に生き物、植物の場合大変なので、その辺を御配慮いただくと、もっといいことになるのではないかなと思っていますので、よろしくお願ひします。

<坂誥会長>

ありがとうございます。植物について、福嶋先生の御指導を頂いていると思いますが、植えたときの段階ではなくて、何年後にどのぐらい生育するかということ踏まえてやらないとまずいですよという御指摘が。あまりそういうことを各地の史跡整備でやらないのです。ですから、武蔵の場合には、是非その点を踏まえて、将来展望をひとつ見て、寺前さんの方でやってください。福嶋先生、市内にいらっしゃいますから、いろいろと御迷惑でしょうが、御指導のほど、よろしくお願ひしたいと思います。

<福嶋先生>

いつでも呼ばれば参りますので。

<坂誥会長>

ということでございますので、大船に乗ったつもりで、寺前さん、よろしくお願ひい

たします。

<寺前史跡係長>

はい。

<坂誥会長>

ほかにございますか。

<馬場委員>

では1つだけ、よろしいですか。

すみません、これ順調に整備されて、非常にいいことだと思うのですが、1点だけ伺いたいのですが、障害者の方などもこういうところがあれば、見にくる方もいると思うのですが、そういうことに対する対応みたいなものは、何か考えておられるのですか。

<寺前史跡係長>

様々な障害をお持ちの方がいらっしゃると思うのですが、例えば武蔵国分寺だと、地下に埋まっているものを地上に表現しようとするときに、どうしても立体のような物で表現する形にはなってくるのですが、その中でも車椅子の方が通れるように通行の幅を考えたりですとか、通行しやすい舗装を考えたりして、整備するようにはしております。

<馬場委員>

分かりました。もちろん、障害者はいろいろな方がいるので、身体的な障害者の方は割とこういうところにいらっしゃると思うので、特に目が不自由な方は、どのように対応されるのかなと思って。

<寺前史跡係長>

目の不自由な方につきましては、今、音声のようなものを備えているわけではないのですが、もともとの整備計画にはARとかVRとかという記載があるのですが、スマホを使いながら、解説板にはデータでもって見ていただけるように整備をするという計画もございますので、今年度の工事には入っていないのですが、追い追いそちらも検討していきたいなと思っています。

<馬場委員>

私、名前は忘れてしまったのですが、東北のほうの市で、青森に行ったときに、こういう大型模型みたいなものがあって、そここのところにレプリカ的に手で触って、その補修の形が分かるようなものが置いてあったという記憶なのですよね。この近くに、八王子城もそういうものがあったような気がするのです。お城の形を。なかなか難しいか分からないけれども、できればそういうものをこの中で少し配慮していただけるのかなと思うのです。以上です。

<寺前史跡係長>

御指摘ありがとうございます。説明が追いついていなかったのですが、大型の立体地形模型の部分につきましては、立体ということで、武蔵国分寺の崖線の崖の部分、

野川の川の部分が少しへこんでいる状況、あとは史跡の武蔵国分寺跡の中で、金堂や講堂は今、基壇を復元しておりますので、そういったところは立体で高さの強弱をつけて、強調した形で復元しようと思っています。私どもは小学校6年生を社会科の授業で御案内することがあるのですけれども、そういったときにでも大型の立体地形模型の周りを囲んでいただき、触りながらお話ができるようにというところを意識しながら作っていきたいと思っています。

<馬場委員>

是非よろしく申し上げます。以上です。

<坂詰会長>

よろしゅうございますか。

<福嶋委員>

1つ、よろしいですか。

蛇足なのですが、令和6年度にやる、この右側の上の部分にエノキが2本あるのですが、これの樹形の管理、やはり切っているのは本来ある樹形の形をした枝があって本来なので、大体センスのない業者は見えないと困るでしょうと言って丸坊主にしてしまうところがあるのです。これは、やはり植えたのではなく、自然に生えてきた木なのですが、この木はこの木なりに基本的な樹形というものがあるので、その辺はとも目立つところなので、配慮していただきたいなと思います。蛇足でしたけれども。

<坂詰会長>

それでは、今、御指摘いただきました中で、寺前さんで、いわゆるハンディキャップの方々に対する、国分寺としてはどういう対応を考えていたのか、また実際に対応はできているか、それから問題点があるというのを踏まえまして、史跡整備の中でハンディキャップ者に対する対応、国分寺市ではこういうことをやっておりますというものを、内部資料でいいと思いますが、皆さんの御意見をまとめたメモを作っておいていただけますか。そうすると対応ができるかと思しますので、口頭で皆さんいろいろとおっしゃるけれども、実際には難しいのです。全国で皆さんやっていますけれども。だから、できればそういう事例を1つ入れながら、武蔵国分寺はこういうことをやっていますよというものを考えておいていただければと思います。是非お願いしたいと思います。

それから、最後に、私、1つだけ質問なのですが、今年度やる大型の模型の横に武蔵国分寺跡の名称の標識がありますよね。今年作るわけですね。まだやっていませんよね。

<寺前史跡係長>

今年作りますが、まだ契約しておりません。

<坂詰会長>

これについて、私の意見なのですが、武蔵国分寺跡という名称がありますね。あれは、是非市長に書いてもらったらいいと思います。普通のパソコンか分からないけれども、あれでやると芸のないものが出てくるのです。ですから、それはいいのではないかと。できれば、今回の整備を中心的に進めていく、一応責任者は市長ですから、市長さんに

書いてもらうのが一番いいと思う。その字は自由なのです。大きいものを書くと市長は嫌がりますから、小さい字で幾つか書いてもらって、それをコンピュータ処理して、彫りつけるというものが私の意見なのです。そうしませんと、何のために整備をしたのか、その整備をした説明をする場合、その背景、それに何代目の市長がこういうことを書いたのだということを残すべき。

特に私、今でも疑問に思うのは、東山道武蔵路跡のところにありますね。あれは市長が書いたのです。普通のコンピュータで書くというから、私は駄目だと言って、確か、市長さんに頼んで、書いていただいたのです。ところが、書いていただいたのはいいのですが、その旨の記載と活用が何にもなされていない。そういうところが国分寺市にはあるのです。頼むだけ頼んでやるのです。ところがアフターケアが全然できていないというものがありますから、そういうものを踏まえまして、どういう意味でこの字を書いたのか、この書体をどういう意味で書いたのかというものを、是非やっていただくといいいのではないかと思います。これは、私の意見ですから、あとは古屋先生が駄目だと、私が書くとおっしゃるなら。だけれども、できれば内部で調整していただければ、この史跡の意味づけというものが言葉でつながるのではないかと思います。勝手な私の意見でございますが、付け加えさせていただきます。すみません、余計なことを言いまして。

<松井委員>

私も1点、伺ってもいいですか。南門の南東側に砂利倉庫みたいなものが、今でもありましたか。

<新出ふるさと文化課長>

あります。

<松井委員>

来年度の工事の中で、あれの見通しはついているのですか。

<寺前史跡係長>

今、埋蔵文化財の収蔵施設につきましては、移転先を様々、調整しておりまして、いろいろな部署にかけ合いながらお願いしているところでして、国分寺消防署が新庁舎の東側に移転したことにより、西元出張所の跡地が今、空き地のようになっておりまして、そこを文化財課の収蔵施設ということで、1つ何らか建物を建てさせていただけないかなと思っています。所有者にもお力を借りまして、今、使用貸借で土地をお借りしているので、また計画を立ててまいりたいと思っております。

<松井委員>

ありがとうございます。あれだけ、少し違和感があったところで。

<坂誥会長>

昔から目障りだとおっしゃっていた。

<松井委員>

それはどうしようもなかったわけですけれども、これを機会に何とかなったらいいなと。

<坂誥会長>

よろしく、御尽力をお願いしたいと思います。

それでは、次に移らせていただきます。「史跡地内のトイレの改修について」でございます。お願いいたします。

<勝山文化財普及担当係長>

担当係長の勝山でございます。お手元の資料5を御覧ください。現在、史跡地内にある公衆用トイレにつきましては、武蔵国分寺跡資料館内、史跡の駅おたカフェ及び伽藍中枢部の北側の3か所に設置してございます。このうち、資料館とおたカフェは、おたかの道湧水園の開園時間のみ使用することができ、伽藍中枢部北側にあるトイレが、日時に関係なく使用できる唯一のトイレとなっております。

このトイレにつきましては、昭和51年12月に建設されており、さらに平成6年に同敷地内にユニット式のFRP製の和式トイレが2基増設されてございます。ただ、いずれも経年による劣化が著しく、また和式で男女一緒、非バリアフリー化のトイレであるため、現在の社会情勢から、利用者からの改修の御要望を多く頂いている状況でございます。史跡武蔵国分寺のさらなる周知、普及、来訪者の利便性の向上を踏まえ、このたびトイレの改修を計画したものでございます。

トイレがある土地につきましては、現在、土地所有者より使用貸借で無償にてお借りしております。改修するに当たり、土地所有者からお借りする土地は、西側及び南側の出入口の導線を確認した2系統の出入りができるよう、土地を広くお借りする計画でございます。

男性用は立ち便器2基、洋式個室はトイレ1室、女性用は洋式個室トイレ2室、これに加え、どなたでも御利用できるバリアフリートイレを1室設け、現状の数量を確認した規模で計画しているところでございますが、先に開催されました史跡武蔵国分寺跡保存整備委員会におきまして、便槽数の増加を検討するよう御意見があり、踏まえて可能な限りの増設を現在検討しているところでございます。なお、建物の外観は平屋構造で敷地内付近の環境に調和できるよう、外観の色、外壁の構造に配慮したつくりで計画いたします。

既に土地所有者との御相談を始めていただいております。新たに土地を増やしてお借りすることにつきましては御了承いただいております。使用貸借に必要な現地測量を終え、契約担当課に使用貸借契約締結の事務作業を進めているところでございます。

また建物につきましては、リース会社との契約をし、今年度中に設計、建築作業を実施し、令和7年度からの運用開始を目指しております。なお、現在建物の給排水のための掘削工事の堀山があるため、今回、この掘削範囲内に収まる設計をした上で、今回は建替工事を行う給排水工事につきましては、先行して掘削状況を確認するための調査をする予定でございます。調査結果を踏まえ、遺構を傷めない計画で水道等の配管を進めてまいります。

なお、東京都御担当様にはこの調査につきまして、既に事前協議を始めております。

現時点では、土地所有者様との使用貸借契約締結及び工事施工業者との工事内容の仕様について協議を進めているところでございます。説明は以上です。

<坂誥会長>

御苦労さまです。この問題について先生方からいろいろと御指摘を頂いて、随分無理をされていたと思いますが、トイレの問題が非常に重要だということは御承知のとおりです。私も富士山遺跡、国で保存されましたよね。富士山遺跡の調査のときにずっと関わっておりました。その場合に、第一に考えたものはトイレです。ですから、今、富士山を指定したところで、静岡県側は何か所かありますが、私が考えるより、狭くて小さいです。富士山の遺跡ですから、バスが着くのですね。それに対応できないものが大分あったということで、私も委員を20年やって辞めてしまいましたけれども、かなり狭いと。その場合、史跡の場合にはトイレを考えるということが今、だんだんと普通になってきておりますので、それを踏まえて今度はやっていただけるのではないかと思います。

ただ、今、伺いますと、調査したり、新しいトイレの形を作るというのは大変結構だと思うのです。大変だと思うのです。ただ、私に言わせれば芸がないです。なぜかといいますと、せっかく武蔵国分寺の史跡のそばに作るトイレですね。ですから、ユニークな施設を作ったらい。ユニークな施設というのは、トイレをどうにかしろという意味ではないです。

今度、せっかくトイレを改修するのならば、奈良時代のお寺のトイレ、どのように用を足していたのかということも壁でもいいですし、文字でもいいです、そういう例を何か1つ表示してください。奈良時代の寺院におけるトイレの問題というものは、非常に今、各地でやっているのです。中世以降は例が数多くあるのですからいいのですが、恐らく奈良時代でもそういうものは出てきている。

そういう点を考えまして、せっかく武蔵国分寺の新しいトイレですよ、改修して作るわけですから。そういう面を加味していただいたらどうでしょうか。そうすると用を足しに来た方も、史跡のトイレ、さすが武蔵国分寺というので、いかに国分寺のレベルが高いかということを知っていただくのは、トイレが一番いいのではないかと思います。ですから、大変だけれども考えていただけますかね。整備するのも結構、だけれども、用を足すのはそうした意味づけを、史跡に来て、トイレに行っただと、そういう印象づけを1つしていただくということが武蔵国分寺史跡としての将来に結びつく、また市民の人にとっても疑問点がそこで紹介されるという点があるのではないかと思います。

これは私が勝手に今、申し上げたわけですが、これは課長のところでひとつ考えていただいて、せっかくの改修ですから、お願いしたらどうかなというのが、私の勝手なお願いです。

<新出ふるさと文化財課長>

ありがとうございます。研究させていただきます。

<坂誥会長>

僕は何かできるのではないかと思います。それで遺構の中でどういうものを表現した

らいいかというのは、幸いというと申し訳ないですが、藤井先生がいらっしゃるから、今日は御欠席ですけれども。藤井先生の御意見を聞いてみると、藤井先生は詳しいですから、どういうことを考えるといいかなという御示唆を頂けるのではないかと思います。余計なことですが。ほかによろしゅうございますか。

<副島委員>

よろしいですか。今回、これでいいだろうと思うのですけれども、男子というものはこの個室がなくてもいいという考え方が、従来の考え方ですけど、男子小便器2、男子個室1となっていますけれども、最近小学校、中学校でも徐々に全てが個室という考え方はありますし、また欧米の空港などに行きますと、男子女子に分かれていないで、全て個室が並んでいて、誰でもどこにも入っていくオープンなスペースなのです。いろいろなことが今、問題になっていますけれども、男の人と男の人同士は個室ではなくても、個室ではないところでも同性同士だったならば何も問題が起きないというのは、いかにも昭和的な考え方でありまして、むしろそのほうが問題は多いように思うのです。私もいろいろな公園に行きますけれども、この歳になっても、個室ではないところがあると、そこに行くと、後ろがとても気になりますよね。誰が来るのか分からない。またそういう場所がそういうこととして使われることは実際にあるわけですから。

今回はいいのですけれども、男子は個室が1つあればいいのだと、あとはそうではなくて、みんなが入れるところがあればいいという考え方というものは、もう恐らく、現時点ぐらいでも既に時代遅れになっているのではないかなと思います。みんな、ここにいる男性は随分年齢が上ですけども、恐らく、この中で20代の男の方がいれば、この話をもっともっとよく分かっていただけれると思うのです。そんなことも、今後はまた改修するときがあるだろうと思いますので、お考えになっていったほうがよろしいのではないかと。

<坂詰会長>

どうもありがとうございました。

いろいろと今、お声が出ましたので。中国の場合は何にもないのね。中国は遺跡に行っても映画館に行っても何にもない。私はいつも中国に行くたびに、すごいなと話し合っていてやっていますよ。

もう全部オープンです。みんな、前を向いていますから。史跡でもそういうものがあるのです。中国の史跡。

それはお国柄で。今、副島先生に御指摘いただきましたが、我が国においてもだんだんと変わってくるのではないかなと思うので、それこそ史跡整備におけるトイレをどうするかという問題を1つ。

<副島委員>

最先端の考え方を。

<坂詰会長>

先端を武蔵国分寺でも考えておいていただくと。実行に移すとなると、こういう方向

で考えたのだということ、是非御検討いただければ、これまた面白いと思います。よろしくお願ひいたします。ほかによろしゅうございますか。

それではもう1点、次に移らせていただきます。「市史編さん事業について」、依田さん。

<依田市史編さん室長>

市史編さん室長の依田です。本日、皆様のお手元に発行日より少し早いのですが、6月15日号の市報をお配りさせていただきました。表紙をめくった見開き両面に、今年から本格的に着手しています新たな国分寺市史編さん事業につきまして、去る4月12日に井澤市長、古屋教育長、そして本委員会会長で市史編さん推進委員会の副委員長でもございます坂詰秀一先生、新たな市史で現代市制部会を担われる東京経済大学の羽貝正美先生、近世・近現代部会長を担っていただきます東京都公文書館の西木浩一先生、原始・古代・中世を担われる明治大学兼任講師の荒井秀規先生の、6名の皆様によるトークセッションを行いましたので、その特集記事を組みました。市史を編さんしていく上で、どのような視点が必要となるのか課題と展望を皆様にお話をさせていただきまして、紙面の都合で懇談内容全てをご紹介できませんが、市史に馴染みの少ない市民の皆様にも分かりやすい内容になっているかなと思っております。市報は市内の全戸に配布されますので、市史編さん事業がこれからスタートすることを多くの皆様に知っていただけるのではと思っている次第でございます。

さて、「次第の3 事務局連絡」のところでも御紹介申し上げましたが、令和5年度まで、ふるさと文化財課の文化財保護係が所管している業務のひとつに位置づけられておりました「市史編さんに関する事務」は、令和6年度からは教育委員会事務局の中に、ふるさと文化財課とは「暖簾分け」するような形で「市史編さん室」が立ち上がり、室長・係長のほか、正規職員で近世史が専門の学芸員1名、会計年度月額任用職員の学芸員3名、うち近世史が1名、中世史が2名、さらに総合事務担当1名、計7名の職員が着任いたしました。

お手元に配付しました資料6-1の「新たな国分寺市史編さん基本方針」は、今年2月に市として決定し、3月に開催しました文化財保護審議会にて御報告を差し上げる予定でございましたが、天候不順で書面開催となりましたので、再度、資料をお示しして、要点をかいつまんで手短かに御説明をさせていただきます。

表紙をめくっていただきますと、1ページ目に目次をお示ししてございます。「1. はじめに」から大見出しを9つ掲げ、これまでの市政ならびに市内で実施した様々な文化財調査の経過と現状を俯瞰したのち、市史編さんの目的、編さんの方針、市史の内容と構成、刊行計画、編さん事業体制、市民協働、その他、としてございます。「はじめに」は方針の枕詞ですので省きまして、同じ2ページ目の「2. 新たな国分寺市史編さんに至るこれまでの経過」では、国分寺市の歴史資料・文化財の様々な調査研究がこれまでどのように蓄積されてきたのか、とくに市では昭和50年から平成10年まで、一度、市史編さん事業を行って上中下巻の全3冊からなる市史本編を発行しておりますが、当時

はどのような調査を行って、その後、現在に至るまで、古文書・民具・考古資料等の収集が、課題を含みながらもどれほど進んできたのかを触れております。

続く6ページ目、「3. 新たな市史編さん事業の目的」では、これまでの経過を踏まえ、これからどのような目的で新たな市史編さんを行っていくのか、意気込みと申しますか、将来展望について(1)から(9)の小項目を立てました。(1)市制施行60周年を契機に事業着手し、前回刊行しました現市史の内容を見直し、現市史刊行以降の国分寺市の歴史を明らかにしてまいります、としましたことのほかに、収集した資料を系統立てて整理し、保管し、次世代に向け市民共有の財産として大切に残していくこと、学校・社会教育、地域づくり・まちづくりのための基礎的な資料を作っていくこと、などを明記してございます。

7ページ目、「4. 新たな市史編さん事業の方針」では、大きく、(1)の「基本的な考え方」と、(2)の「編集・活動方針」に分類しております。(1)の「基本的な考え方」では、さらに①から④の小項目を立て、①地域史資料を整理し、市民共有の財産にしていくこと、②地域を核としつつ広い視野で地域史の編さんに努めること、③失われつつある資料を保全し、次期に継承すること、④国分寺市特有の自然・歴史を表徴するキーワードとして、国分寺崖線・国分寺造営・鎌倉街道・新田開発・鉄道敷設・都市近郊・住宅化など、地域の独自性を表わす言葉を念頭に方針を掲げました。

その具体的な取組としましては(2)編集・活動方針に、①から⑨までの小項目を立てました。教育委員会の文化財保護所管部署であります、ふるさと文化財課をはじめ、学校指導課・公民館課と連携し、文化財調査の成果を市史に活かすこと、市内小学生の社会科副読本の制作に積極的に関わること、子ども向けの市史の制作を目指すこと、地域の歴史に関心を寄せる市民育成のための様々な講演会行事を連携して行うこと。特に③について、昭和39年に国分寺市が市制を施行してからの歴史は、前回の古い市史ではあまり反映されておりませんので、こちらは坂詰先生からも御指導いただきましたが、「現代市制編」として、これまでの国分寺市の行政が歩んできた歴史をまとめることなども、目玉の事業として取り組みたいと思います。

そして、9ページ「5. 市史の内容と構成」では、坂詰先生から多くの御意見を頂きました。(1)史・資料編と(2)通史編としましては、①原始・古代・中世、②近世、③近現代、そして④現代市制資料の4種、(3)特論編として、生活・民俗、地図・絵図、行政・福祉・教育、建築や美術工芸を取り扱う有形文化財、(4)別編として、国分寺市の遺跡を代表する武蔵国分寺出土瓦の資料集、(5)「その他」として、子ども市史・概要版・年表索引のほか、定期的な刊行物となります市史研究やニュースレターなどを発行していく予定です。市史研究などは、単なる「国分寺市史研究」とはせず、新たな国分寺市史を象徴するような本のタイトルも今後検討してまいりたいと存じます。

10ページ目「6. 編さん期間及び刊行計画」につきましては、最後にお付けしましたA3九十九折りの表を御参照ください。基本的には坂詰先生に整理していただきました各種刊行物類を、順番に刊行していく体裁で刊行計画を掲げております。前半の5年間

で資料編を完成させ、後半の5年間で通史・概要版を発行していく流れとなっております。

続いて11ページ「7. 編さん事業推進体制」は、国分寺市市史編さん推進委員会で市史編さんの基本方針並びに各年度の事業計画を決め、推進委員会の下に専門部会を作り、原始・古代・中世部会、近世・近現代部会、現在市制部会の3つの部会制としました。各専門部会は、部会長の下、専門員・調査員・協力員の3層構造で、多様な方々に市史編さんに御参画を頂きます。また、この市史編さん推進委員会の下部組織として、執筆原稿を総合的な視点で整理・調整・編集し、刊行につなげる「市史編さん推進委員会編集委員会」を設置しております。

続く「8. 市民との協働」では、『国分寺市総合ビジョン』でうたうまちづくりの基本理念に照らしまして、研究者や行政職員だけではなく、広く市民と協働する旨を整理しております。特に、資料調査や様々な関連事業を通じまして、坂詰先生からも御提案を頂きましたが、市内には「国分寺市史談会」のような市民主導の歴史研究会が根づいていない現状があることを踏まえまして、市民等が自主的に歴史学習するサークル等の形成につなげていけたらと思います。

最後の「9. その他」では、少々重い課題ではございますが、将来的に重要な市の歴史資料ともなる歴史的公文書の保存・活用に向けた検討を行うこと、それから、具体的に市史の体裁や執筆要領に関わる細則の取り決め、方針の市民への周知と事業推移を見ながら適宜見直しを図る旨を整理いたしました。いささか御説明の行き届かないところもございますが、以上が資料6-1基本方針の概要でございます。

さて、基本方針を審議いたしました附属機関に、基本方針の11ページ「7. 編さん事業推進体制」で触れておりますが、「国分寺市市史編さん推進委員会」という委員会を、昨年10月11日に要綱設置し、その要綱を資料6-2としてお示しいたしました。令和5年度は11月20日と本年1月17日の2回、委員会を開催し、委員会の構成メンバーは現在、坂詰先生、元市史編さん室長の坂本委員、それから以前、市史編さん室に在籍され、今は文化財保護審議会委員の太田委員、さらに、新たな市史で現代市制部会長の羽貝正美委員、近世・近現代部会調査の西木浩一委員、原始・古代・中世部会長の荒井秀規委員のほか、第一副市长・教育長・政策部長・教育部長の計10名でございますが、昨年、委員会で委員より「基本方針の4にも示されているような、国分寺市特有の自然・歴史をという言葉があり、自然環境などはもう少し専門的な方を新たに加えるという視点も必要で、文化財保護審議会の方にそういった方がいらっしゃれば、御検討願いたい」という提案が寄せられました。そこで、今年4月1日に要綱を改正しまして、現在の10名から12名に増員することといたしました。資料6-3に、2名を動員した場合の委員会メンバー構成表をお示ししておりますが、識見を有する者1名、さらにこの文化財保護審議会から現在坂詰先生と太田委員の2名の委員に加わっていただいておりますが、もう1名御参画を頂けましたらと考えております。本件につきましては、本日の委員会で御審議していただくわけではなく、坂詰先生とも御相談のうえ、改めまして個別に御

相談をさせていただけましたらと考えているところでございます。

教育委員会には、ふるさと文化財課に文化財保護審議会と史跡武蔵国分寺跡保存整備委員会に続き、市史編さん室に国分寺市市史編さん推進委員会、という3つの委員会ができました。文化財保護行政と自治体史の編さんは、共に密接不可分の関係がございますので、引き続き、文化財保護審議会の委員の皆様のお力添えを頂ければ幸いです。以上で御説明を終わります。

<坂誥会長>

説明が終わりました。ただ今の説明に対しまして、質問とか御意見はございますでしょうか。いかがでございましょうか。

<松井委員>

10 ページのところに市史の構成がありますけれども、この中で拝見していて不勉強だからずれてしまうかもしれないのだけど、(5) その他に「子ども市史」がありますよね。その他のほかの内容と、この子ども市史のところが、若干重なる部分があるという気もしたのですが。特論編の中の福祉・教育編の中に入れるとか、あるいはその辺として、子ども市史を位置づけるとか、そんな検討というのはなかったのでしょうか。

<依田市史編さん室長>

ありがとうございます。事務局では、今、松井先生がおっしゃられた観点での検討は未だしていませんが、子ども市史は、せっかく作る市史を大人だけではなくて、是非子どもたちにも読んでいただきたいということで企画いたしました。

<松井委員>

そういう市史ですね。分かりました。

<坂誥会長>

よろしいでございましょうか。

<松井委員>

はい。

<坂誥会長>

ほかに何か、御意見、御質問ありますでしょうか。

<副島委員>

教えていただきたいのですけれども、10 ページの(3)のところに「特論編」があり、「特論」という言葉が出ていますが、この中に①から④まで入っているのですが、この特論編というものはどういうことをイメージなさっておられるのですか。

<依田市史編さん室長>

例えば②の地図・絵図編などは、市内に残る地図や絵図にフォーカスして資料を収集し、本冊に収められた資料を通観することでまちの移り変わりが分かるような本ということで、特論編という位置づけをいたしました。

<副島委員>

例えば民俗の場合だと、(1)のところにも民俗がそれぞれの時代のところに分かれて

入ってきますよね。それが今度は特論編になると、それが重なってまた出てくる。

特論というものは、普通、例えば研究論文みたいなものをくっつけるとか、それについて誰がどう思うかとか、そういう特論というのは分かるのですけれども、少し特論編という意味が曖昧かなと思って。今度、そうすると別編というものがあって、どちらかという、別編ではないかなと。分かりませんが、これ、いろいろなやり方ですから。

それから、私は美術をやっているのですけれども、この④「有形文化財編」という言葉は、少し誤解を招くのではないですか。というのは、文献でも資料でも文化財を2つに分けたら、無形と有形に分かれるわけで、ここで取り扱うものは、民俗以外は、ほとんど有形ですよ。ここに有形文化財編の中で、建築・美術・工芸と出てくる。それだけが有形文化財とまとめてしまうのも少し難しいかなと思いました。

あとは、美術は1人しかしないし、どこの審議会でも美術は隅っこに追いやられています。この中に美術という言葉は1回ぐらいしか出てこないです。立場上、そういうことで委員にさせていただいているので、1つだけ申し上げておきますけれども、7ページのところで「新たな市史編さん事業の方針」の「基本的な考え方」というのがございます。魅力あふれるとか、あるいは活躍できるとか、いきいき健やかとか、心安らぐとか、それは全て美術・芸術という言葉の中に含まれることなのです。どうして市史というものを作って、歴史を振り返ろうと思ったとき、その美術というキーワードが脱落するのかなというのは、少し私は残念だなという気持ちがあるということだけ申し上げておこうと思うのです。

実際、国分寺市の仏像調査も本当に短い期間でしたけれども、以前、委嘱されて、やったことがあります。結局、それもそのままに終わって、それも恐らく、市としては美術の調査とか、保存とかというのではなくて、歴史指標としてお寺に仏像があるのだったら、少し調べておいてという雰囲気があるのですが、そういうことで国の文化財保護体系の有形文化財の絵画・彫刻というものは位置づけられているのではないのです。あくまでも美術・芸術で、人間の心を癒して、また、というところなので、宣伝だけしておいて、少しでも考えていただければありがたいかなと思います。よろしくお願いいたします。

といっても、皆さん、大変。どこでもスタッフがいないから、やろうと思っても、それだけの人数がいても、実際実働できる人は1人もいないから、ではお前が全部やれと言われても、府中市でやりましたけれども。しかし私も坂誥先生よりは若いですけど、どんどん歳がいつてきて、では国分寺市内のものを、お前1人で全部走り回って調査しろと言われて、できるか、できないかですよ、それは。という感じで言われたことがある。記憶にとどめておいていただきたい。改まって申し訳ありません。

<坂誥会長>

今、お話しのことですが、副島先生には私が府中市の市史編さんでお願いしてしまっていて、近々、美術工芸編が完成しますからぜひ皆様もご覧になってください。当初の市史

の刊行計画の中には入っていなかったものを、副島先生にお願いして、別に作っていただいたものです。府中と国分寺は隣り合わせでもございますから、是非御検討いただいて、いろいろな事情があるかと思えますけれども。

それから、前に申し上げましたけれども、建築も藤井先生がいらっしゃるわけだから、そういう点もひっくるめた形で出ていますけれども、より将来、そういう問題を踏まえて、これが全てではないのだというのを、新たなところで検討していただければと思います。

<副島委員>

市史の中ではなくても、その後のこととしても、もちろんいいと思うのですが、やはり高齢者、あるいは若い方、文字を読むのが嫌いな方にとっても、歴史というものをそのまま伝えていくために、美術、それぞれの出会いの美術作品というものがあって、江戸時代の難しい文献を100ページ読むよりも、江戸時代の仏像を3体、きちんと見たほうが、その時代は実感として分かるだろうというのが、私どもの学問の立場なので、少し宣伝だけさせていただきます。ありがとうございました。

<坂誥会長>

他に何か。

<福嶋委員>

特論編の生活と、それから2番目の地図がありますね。これ、特に、私の気になります地図というものは昔からの作られた地図から明治になって本格的に測量した地図と、いろいろと年代ごとにありますけれども、その上、もちろん人々の生活と土地利用というものがもろに関係してきますよね。その土地利用が、図面、地図に表されているということですから、是非その辺の連携も取った考察をお願いすると、より、その歴史的な背景がきれいになるのではないかなと思いますので、よろしくお願いします。

<依田市史編さん室長>

ありがとうございます。

<坂誥会長>

ほかに御意見はございますか。

<馬場委員>

では、1つ。意見というよりは質問なのですが、今、副島先生がおっしゃっていたような意味合いで、何で有形とつけるのかなと。文化財編ではいけなかったのかなと、その疑問があったのですよね。国分寺というと、やはり武蔵国分寺跡とか、いろいろと史跡がありますよね。令和4年に指定した胎内堀もありましたよね。そこを分けた理由と、それから、先ほど委員の方から意見が出て、自然関係がないとおっしゃっていた意見がありましたよね。確かに歴史といえ、ずっと見ても、人々の営みが中心になっていて、自然史関係みたいなものがないというのが、何でないのかなと少し気になったのですが、その辺りはいかがなのでしょう。

<依田市史編さん室長>

8ページが一番下に、基本的な考え方として「国分寺市特有の自然・歴史を表徴する以下のキーワードを意識して叙述します」というくだりがあり、主に国分寺崖線のところに自然環境という言葉が出てまいります。刊行予定の本では、おそらく通史編の①原始・古代・中世で、人々が市内に暮らし始めた記述をするところに関連して、そういう自然環境や地形の記述を含めることを想定しておりまして、あえて自然編というものを別立てにはしていない体裁にはなってございます。ですが、これも最初に基本方針の段階で、このような書きぶりで書かせていただいていたしまして、まだ市史の編さんに向けた調査はこれから始めてまいります段階ですので、調査を進めていく過程で、この基本方針から少し外れる新たな視点とか課題とか、変更を要する刊行計画が出てくるようであれば、先ほども申しあげました国分寺市市史編さん推進委員会で、年に1回、こちらの基本方針の見直しだとか、刊行計画の見直しをしていくことになっておりますので、そういったところで、これから検討していきたいと思っています。

<福嶋委員>

よろしいですか。今、馬場先生が御指摘になったことは、その自然環境、そのレベルは八王子とか、それから府中市とか、そういうところはグループを作って本格的にやっているのですよね。だから、最初に計画を拝見したときに、これは歴史に特化するのだなと私はイメージしたのです。いわゆる市史というものは歴史もあるし、自然も全部含んでいる、そういうつくり方もあるし、だから特化したやり方もあるのだろうと思うのです。その辺がどのようにになっているのかということが最初は気になったのですけれども、特化していくのも、それは1つのやり方かなと思います。

<馬場委員>

これを見ると、少なくとも原始時代というのは、自然環境というのをその中で表現していく、融合させていく。ただ、そういう考え方を持っていたときに、もちろんそういうキーワードを意識されているので、自然環境なんかだとやはり武蔵野台地という、そういう環境があるわけですよね。だから、そういうものをここで表現してもいいのかなとは思ったのですが、今、御説明を受けて、自然史もあったほうがいいかなと。感想ですからあまり気にしないで結構ですけれども。このところに、必要において、見直しは図っていくということなので、そういうものも少し念頭に入れておいて、また考えながらやっていただければと思います。

<副島委員>

実際にどうですかね。今、平成・令和に生きている市民の方というのは、例えば武蔵国分寺の跡に行って、もちろんお寺でどういうことをやっていたのだろうかとか、お坊さんが何を勉強していたのだろうかということも考えるでしょうけれども、それよりもどちらかといったら、一般の方はどういう景観だったとか、その頃どういう木が生えているのだろうかとか、昭和ぐらいまでというのは、自然というのはそんなに変わらないと思っていたのかも分からないが、次々に変わってきて、景観が変わってきて、気温が変わってきているということになると、自然環境というものも歴史の中の大きな

1つの視点で、福嶋先生のような方から見れば、昔は生えているほうと、今は全然違うわけだから、それは、やはり歴史の大きな変化だろうと思うのですよね。だから、今、おっしゃった自然というキーワードというのも、やはり市史の中でどこかに入ってくると分かりやすいのかなという気はします。

<依田市史編さん室長>

ありがとうございます。

<坂誥会長>

いろいろ御意見を頂いて、実は文化財保護審議会のこの会議を経た上でこれできてきたというのではなく、経過としては教育委員会の内部で検討されまして、それで、今、報告事項に出てきています。ですから、市史編さん推進委員会に私の名前も入っていますけれども、あくまで本日は文化財保護審議会での報告事項として承っておりますので、今のような御意見を推進委員会でどのように反映するのかということは、今後も1つのテーマとして考えてみたらどうかなと思います。これは副島先生が御存知で、私がやるとすごくいいかげんで、かなり大所高所からやってしまうものですから。府中でも、一応そういう問題がございまして、以前は入ってなかったのが強引に後から刊行計画を変えた経緯がありました。だから副島先生は当初からではなくて、途中からで申し訳なかったのですが、急遽途中から参画していただいて、作り上げました。市史編さん事業とはそういうことも多く発生するものです。国分寺市は市制施行60周年を契機にして新たな市史編さん事業を立ち上げたということで、本日は、あくまで事業着手するうえでの基本方針を御説明頂きましたが、今後の市史編さん推進委員会で、引き続き、市史編さんの事業計画を検討していけば良いのではないかと思います。

府中市は10年間市史編さん事業を行いました。今年府中市制施行70周年です。もう突貫工事で20何冊もの市史を発行しました。今年中に完結する予定で、今、事務局は努力していただいています。でも、やはりいろいろと御意見を伺いながらやってきたことでもありますので、今日の御意見を参考にして、今後、推進委員会でしかるべき方法でもって考えていただくということにしたらいかがかなと思います。古屋先生も委員でいらっしゃいますけれども。

<古屋教育長>

はい。貴重な御意見を承りましたので、それを参考に、また推進委員会でも検討させていただきます。まだスタートしたばかりですので、これから、長い道のりの中で参考にさせていただきたいと思います。

<坂誥会長>

そういうことでございます。委員長は副市長でございますので、ひとつよろしく願います。私も意見を述べる機会があれば、述べたいと思います。一応、そんなのでよろしゅうございますでしょうか。

<古屋教育長>

ありがとうございます。

5 その他

<坂誥会長>

ほかに、議事は何かありますか。

<新出ふるさと文化財課長>

その他でよろしいでしょうか。では、「その他」といたしまして、事務局から本多八幡神社の神輿の里帰り報告祭について、御報告させていただきたいと思います。令和2年度に本審議会にて慎重に審議されまして、令和3年3月24日に市の重要文化財となりました本多八幡神社の神輿につきまして、文政3年、1820年に多摩郡一ノ宮村の一ノ宮大明神の神輿として建造されたものでございました。建造から200年たった令和2年、2020年、里帰り報告祭が計画されたところでしたが、当時のコロナ禍により延期になっておりました。それが、このたび、ようやく4月7日に4年遅れで、多摩市本多神社にて開催されました。資料につきましては、これから発行する予定で資料館だよりに記事を載せようと思っています。記事を囲ってございますので、御覧いただけたらと思います。

当日ですけれども、天候にも恵まれまして、両神社の役員、それから両市の市長、みこし会の代表によるセレモニーが行われまして、その後、3時間ほど多摩市を巡行いたしました。両市の関係者がそれぞれの神社に敬意を持ちまして、神社の別なくにぎやかに新旧のお神輿が担がれておりました。以上、御報告でございました。

<坂誥会長>

ありがとうございます。本来、あちらにあるはずが国分寺に来てしまっておりまして、私は調査したことがあるのですけれども、残念がっていました。それで、国分寺にとってはいい報告になりました。里帰りが無事に行われたということでございます。

そのほかございませんか。ありますか。

<新出ふるさと文化財課長>

本日はありがとうございます。次回の審議会の予定でございますが、現在のところ、まだ、未定ではございますので、また御報告事項につきましては整えまして、皆様に御案内させていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。以上でございます。

閉会

<坂誥会長>

どうも本日はお忙しいところ、来ていただきまして、ありがとうございます。本日予定されておりました内容は、これで終了いたします。本日の審議会をこれで終了いたします。本日はどうもありがとうございます。

— 了 —